

日本態度表明で世界動く 岩手から国に働き掛けを

宇宙の謎に迫る国際リニアコライダー（ILC）計画をめぐっては現在、誘致の是非について日本政府による検討が続いている。計画を推進する国際研究者組織リニアコライダー・コラボレーション（LCC）の最高責任者、リン・エバンス氏（英国）に、現状に対する認識と今後の課題、日本政府への訴えを聞いた。（聞き手は報道部・榎権）



東北誘致

欧州合同原子核研究所（CERN、スイス）の大型円形加速器（LHC）がエネルギーを増強させて新実験を開始した。
「ILCはLHCより精密な実験ができるという意

LCC最高責任者 リン・エバンス氏に聞く



日本政府がILC誘致の判断を先送りする中で「時間がたつほどいろいろな問題が出る」と懸念するリン・エバンス氏（スイス・CERN）

味で相互に補完する施設 いるが、最大の問題は日本だ。世界の科学者が求めて 政府が態度を表明していな

リン・エバンス氏 英ウェールズ・アバールデン生まれ。70年スワンジー大卒業。CERNフェローとなる。94年大型円形加速器（LHC）のプロジェクトマネージャーに就任。数々の物理委員会・委員長の要職を歴任する。01年大英帝国第3級勲章を受勲、13年リニアコライダー・コラボレーション（LCC）ディレクター。71歳。

「米側はオープンな議論をしないと...」
ILCの表現に向けたフォーラムや専門会が開かれた。その後の反応は、

状況を限らない限り、米側は資金の話には入らない。欧州も日本側の決定がない限り動けない。日本政府は深刻に考えているのなら、先進7カ国（G7）の会合でILCを議題にするべきだ。国

「技術的な準備に支障が出ている」とのことか。現時点ではうまくいっている。特に、岩手の北上山地（北上高地）に造るに、具体的な調査・研究を進めている。もちろん18年までは研究者として一生懸命のサポートをする。ただ、時間がたつほど、いろいろな問題が出てくるのが現実だ。」

「研究者間で科学的な問題、ILCのデザインやという具体的な議論をすることになるだろう。岩手の地方行政の関係者は非常に高い

「日本がやらない」とのことになると、サポートは全て中国の方に移っていくことを認識すべきだ。岩手との関係者は、日本政府に対して強気に働き掛けを行ってほしい。ILC建設に向けた科学的な根拠はしっかりある。社会的には震災被災地との新しいつながりという意味があると思っ

「先日、東京に行ったが、18年以前には日本政府は決定しないという感触を得た。遅すぎるくらいだが、そこがタイムリミットにな

「先日、東京に行ったが、18年以前には日本政府は決定しないという感触を得た。遅すぎるくらいだが、そこがタイムリミットにな

「研究者間で科学的な問題、ILCのデザインやという具体的な議論をすることになるだろう。岩手の地方行政の関係者は非常に高い

「日本がやらない」とのことになると、サポートは全て中国の方に移っていくことを認識すべきだ。岩手との関係者は、日本政府に対して強気に働き掛けを行ってほしい。ILC建設に向けた科学的な根拠はしっかりある。社会的には震災被災地との新しいつながりという意味があると思っ